

盤龍渡海新絨封待還日披拂變情親。

八角高麗錦の箱一合を具す。

平螺鈿の背、徑一尺三寸二分、緋繩の新帶を着く。

鳥獸花の背、徑九寸九分、緋繩の新帶を着く、殘緒僅に存す。漆皮箱一合を具す。

山水鳥獸の背、徑一尺三分、緋繩の新帶を着く、金繪漆箱一合を具す、緋綾の覗あり。

平螺鈿の背、徑一尺三寸二分、緋繩の新帶を着く。銀平脫の箱一合を具す。

白銀。黄金瑠璃鈿の背、徑六寸三分、新造の帛帶を着く。漆皮箱一合を具す、白繩の覗あり、瑠璃鈿は、今云ふ七寶流しなり。

圓鏡 第二號 一面

圓鏡 第三號 一面

圓鏡 第四號 一面

圓鏡 第五號 一面

十二稜鏡 第六號 一面

圓鏡 第七號 一面

鳥獸花の背、徑八寸三分、新造の緒を着く。漆皮箱一合を具す、緋綾の覗あり。

圓鏡 第八號 一面

鳥獸花の背、徑八寸、新造の帛帶を着く。漆皮箱一合を具す、緋繩の覗あり。

圓鏡 第九號 一面

鳥獸花の背、徑一尺、新造の緒を着く。



鏡 稜 二 十



方鏡 第十號 一面 鳥獸花の背、徑五寸八分新造の緒を着く。漆

皮箱一合を具す、白繩の覗あり。

圓鏡 第十一號 一面 鏡。漫の背、徑八寸七分、木綿の緒。金銀繪漆

箱一合を具す。木綿は一説に穀の皮を漂泊し、布を織る原料となすものなりと云ふ。

八角鏡 第十二號 一面 鳥獸花の背、徑一尺七寸三分、緋繩の新帶を着

く。箱は新造品。

圓鏡 第十三號 一面 十二支八卦の背、徑二尺、緋繩の新帶を着く。

六角櫃箱一合を具す。

圓鏡 第十四號より第二十二號に至る 九面 いづれも漫の背、徑

七寸八分、白緒。内四面の緒は新造品。

圓鏡 第二十三號より第三十號に至る 八面 いづれも漫の背、徑

四寸九分、木綿の緒

圓鏡 第三十一號 一面 文字の背、徑五寸七分、文に云はく『勿相思

勿相忘、常費□樂未央。』

圓鏡 第三十二號 一面 鳥獸花の背、徑三寸五分。

八角鏡 第三十三號 一面 花鳥の背、徑四寸九分。

八角鏡 第三十四號、第三十五號 二面 いづれも花虫の背、徑三寸八分。

八角鏡 第三十六號 一面 背及び徑とも前號に同じ、明治卅五年新嘗

祭の日、杉本神社の床下に於て發見せしものを茲に納む。箱は新造品。

六角鏡 第三十七號 一面 花の背、徑三寸八分。

八角鏡 第三十八號 一面 花虫の背、徑二寸三分。



南倉階与棚外

(131) 篋

篋

二張

(南第七三號)

和名百濟琴なり、今存するものはその殘材のみ、收集して箱に納む。傍に摹造二張を附す。

(132) 古

裂

類

重箱八臺

(南衣帶幪帳等ノ内)

整理を了して重箱に納めたるもの、一部をこゝに出す。重箱の目左の如し。

天號

宙號

地號

洪號

玄號

黃號

宇號

荒號

參照年表

紀元	御宇	年號	記	事	西洋年
一三三三	天武		天皇在位		六七三
一三四六	文武				六八六
一三六七	文武	慶雲四	七月二十六日詩序日付		七〇七
一三七〇	元明	和銅三	都を平城に遷す		七一〇
一三七二	元明	同五	(唐玄宗位に即く)		七一二
一三八〇	聖武	神龜元	天皇即位		七二四
一三八九	聖武	天平元	神龜六年八月五日改元、光明子を立て、皇后とす		七二九
一三九一	聖武	同三	九月八日雜儀御日付		七三一
一四〇一	聖武	同三	詔して諸國に國分寺を建てしむ。		七四一
一四〇四	聖武	同六	十月三日樂毅論御日付		七四四

年表

一



一四〇九	聖武	天平	四月改元	七四九
一四一二	孝謙	天勝寶元	七月天皇即位、改元	七五二
一四一六	孝謙	同	四月九日大佛開眼	七五二
一四一七	孝謙	同	五月三日太上天皇(聖武)崩す 六月二十一日國家珍寶及種々藥々東大寺に獻す 七月二十六日屏風花籠等を東大寺に獻す (去年唐安祿山反し、此の年玄宗蜀に奔る)	七五六
一四一八	淳仁	天寶	正月二十一日沙金請文日付、八月改元	七五七
一四一九	淳仁	寶字	六月一日大小王眞蹟を東大寺に獻す 十月一日書屏風を東大寺に獻す	七五八
一四二〇	淳仁	同	三月十九日桂心請文日付	七五九
一四二四	淳仁	同	皇太后(光明)崩す	七六〇
一四二七	淳仁	天平	五月惠美押勝亂を爲す、九月十一日御甲御大刀御弓出藏 八月神護景雲を改元	七六四
一四四一	淳仁	天應元	王羲之書法出藏後還納	七六一

一四四七	桓武	延暦	六月二十六日曝涼使解日付	七八七
一四五三	桓武	同	六月十一日曝涼使解日付	七九三
一四五四	桓武	同	都を平安に遷す	七九四
一四七一	嵯峨	弘仁	九月二十五日勅物使解日付	八一
一四八三	嵯峨	同	弘仁年間屢寶物の出藏、還納、換納あり	八二三
一四八六	淳和	天長	九月一日雜物出入帳日付	八二六
一五一六	文德	齊衡	六月二十五日雜財物實錄日付	八五六
一八四〇	高倉	治承	大佛炎上	一一八〇
一八四五	後鳥羽	文治	八月二十八日大佛開眼	一一八五
一八九〇	後堀河	寛喜	十月二十七日盗人寶庫に入り御鏡を竊む	一二三〇
一九一四	後深草	建長	六月十七日雷寶庫に震す	一二五四
二一二五	後土御門	寛正	足利義政に黄熟香を賜ふ	一四六五
二二二七	正親町	永祿	松永久秀大佛殿を焼く	一五六七



二二三四	正親町	天正二	織田信長に黄熟香を賜ふ	一五七四
二四九三	仁孝	天保四	寶庫及び寶物を修理す、翌年に亘る	一八三三
二五三七	明治	明治一〇	奈良行幸黄熟香を截らしめらる	一八七七
二五五二		同二五	御物整理掛を置き寶物を修理す、後數年に亘る	一八九二
二五七三	今上	大正二	寶庫を修理す	一九一三

大正十四年十月廿一日印刷  
大正十四年十月廿六日發行

(定價金五拾錢)

不許  
複製

帝室博物館

東京市神田區三崎町三丁目七十一番地  
印刷者 川西房治郎  
東京市神田區三崎町三丁目七十一番地  
印刷所 株式會社共榮舎



REF-7

1945  
1946  
1947  
1948  
1949  
1950  
1951  
1952  
1953  
1954  
1955  
1956  
1957  
1958  
1959  
1960  
1961  
1962  
1963  
1964  
1965  
1966  
1967  
1968  
1969  
1970  
1971  
1972  
1973  
1974  
1975  
1976  
1977  
1978  
1979  
1980  
1981  
1982  
1983  
1984  
1985  
1986  
1987  
1988  
1989  
1990  
1991  
1992  
1993  
1994  
1995  
1996  
1997  
1998  
1999  
2000  
2001  
2002  
2003  
2004  
2005  
2006  
2007  
2008  
2009  
2010  
2011  
2012  
2013  
2014  
2015  
2016  
2017  
2018  
2019  
2020  
2021  
2022  
2023  
2024  
2025



終

